

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人八幡福祉会
施設名	浅口はちまん認定こども園
報告者（役職）	丸野由美子（園長）
住所・連絡先	岡山県浅口市鴨方町鴨方 1540-1
	☎ (0865) 54-0200
	E-mail asahachi@mx2.tamatele.ne.jp

○タイトル（保育計画）

子どもたちの可能性を広げ、経験を育ちにつなげる

○主な助成備品

テーブル、チェア、トンネルジム等

1. 保育計画策定の目的

当こども園は、平成29年4月に開園をしました。当法人は、保育園を40年間運営しており、その経験もあって隣接市である浅口市の待機児童対策として、はじめて幼保連携型こども園を開設しました。幼保連携型こども園を運営するにあたり、保育園と様々な点で戸惑う部分がありました。特に1号認定の子どもをお預かりするという点です。いままで保育園ではほとんどの子どもたちが8時間以上を園で生活する中、保育のカリキュラムも1日を通した活動として年間計画をたてていました。しかし、こども園では、1号認定の子どもたちは14時までの利用となりますので、当然、保育園のような保育カリキュラムとすることはできませんでした。園としても1号認定の子どもと2号認定の子どもの育ちに差を出すことは絶対にあってはならないと、開園するにあたって保育教諭みんなでこども園の保育・教育カリキュラムを検討していきました。同法人の保育園では、子どもの可能性を引き出したいと様々な「まなび」（音楽・体育・英語・硬筆・徳育など）を取り入れているのですが、音楽を例にとれば、マーチング演奏に取り組み、いろいろな楽器を演奏し、みんなで力を合わせる中で、協調性や同じ目標にむかって取り組む達成感や粘り強さを養い、そのような経験を積むことで社会性へとつなげていきます。また、体育では、幼児期からの体力づくりはもとより頑張る力をつけていきます。しかし、音楽や体育などは継続的な取り組みが必要となり、1号認定児の利用時間で取り組むことに不安がありましたが、指導計画を作成する上で職員みなで何度も論議を重ねて指導方法や園生活などを工夫することで、少しずつ音楽や体育に取り組んでおります。それぞれの「まなび」は、それぞれの分野を鍛錬するのではなく、子どもたちが未来にむかって幸せになる力をつけ

てほしい、いわば「生きる力」をつけていってほしいと思って取り組んでおります。また、音楽演奏などを通じて地域の行事に参加したり、地域交流としても子どもたちに様々な体験を積むことで豊かな心を育てていってほしいと考えております。

2. 具体的な実施内容

衛生管理

<玩具殺菌乾燥保管庫>

乳幼児が長時間にわたり、集団で生活することも園では、一人ひとりの子どもの健康と安全を大切にしています。抵抗力が弱く、心身の機能が未熟である乳幼児の特性をふまえ、適切な感染症対策を重要視しています。日頃から玩具の水洗い、日光消毒などを心がけていますが、殺菌をすると、より衛生管理が高まり、大切な子どもたちが園生活を健康に過ごし、様々な活動を楽しむことができます。保護者に対しても口頭で、または保健だよりや掲示などを通じて、子どもの衛生管理や保健活動、安全管理についてしっかり伝えており、次第に意識が高まっています。また、玩具を使って遊んだ後や夕方保育が終わった後など素早く殺菌をしています。とても便利で保育教諭の衛生管理の作業の効率化にも繋がっていて、非常に有難いです。



全身運動

<トンネルジム・ハイハイおやま>

乳児期の成長に注目をし、できるだけ広いスペースの中で、安全に「ハイハイ」や「つかまり立ち」「伝い歩き」などがしっかりできるように環境を整えています。最近、ハイハイをほとんどしないまま自立歩行を始める子どもも増えているので、遊びの中で意識的にさせてあげるように働きかけています。トンネルジムで子どもの好奇心を刺激したり、平たい場所に比べ身体のバランスを保つことが難しいハイハイおやまに挑戦したりして、より体幹を鍛えるようにしています。年齢の小さい子が使うので、特に安全面に気をつけて設置しました。運動用具の組み合わせにより乳児の遊びも広がってきているので今後も工夫をしていきたいです。



環境づくり

<机、椅子>

保育・教育現場として、各年齢の保育室だけで生活するのではなく、図書コーナーやラウンジルーム、ホールなど、みんなで共有できるスペースを使った保育を工夫しています。外国の保育現場の良いところも取り入れながら、子どもたちのより良い教育・保育のための環境を整えています。集団生活の中、できるだけ一人の空間を維持できるように、また保育室だけでなく、いろいろな部屋に適した数の机や椅子を用意し、座って集中して活動できるように配慮しました。様々な活動、特にまなびでは年齢に合った高さの机があると落ち着いて学ぶことができ、年長児は就学に向けた自覚づくりもできています。



<カーペット>

母親の就労に伴い、長時間保育の子どもたちが増えているので、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように配慮しています。朝や夕方は、小さいクラスの保育室で異年齢児と一緒に過ごすことが多いので、コーナー別に好きな遊びが楽しめるように、カーペットや机を使用し環境を工夫しています。子どもの様々な思いがありますが、一人ひとりの空間を確保することで衝突も減り、子ども同士の関わりを深めながら満足して遊びを楽しむことができます。カーペットの温かみがより子どもたちの心の安定にも繋がっています。



<ひな段>

1年間の集大成として子どもたちが演技を発表し、皆で成長を喜び合う学芸会。舞台は限られた広さなので、ひな段を使って全員の子どもの顔や姿が観客席からよく見えるように配慮しています。子ども自身もひな段に上がると観客席がよく見えるので、ますます意欲が高まり良い表情が見られています。ひな段を使用するときには保育教諭が必ずそばで見守るとともに、子どもにも十分気をつけるように話し、様々な状況、環境の中で、危険のないように考えて行動することを身につけるように指導しました。



3. その成果と評価

運動遊具を使って段差を上がったたり、下りたりして身体を動かして遊ぶことが増え、小さい子ながらに肩、腕、足などの筋力を使う経験がしっかりとでき、少し鍛えられたと感じます。異年齢児で遊ぶことで刺激になったり、保育教諭とのスキンシップも楽しめたりして、満足した園生活が送れています。安全な環境、そして備品が整えられた中で、園生活を楽しむことにより、生活や遊び活動の幅が広がっていくことに繋がりました。

また食事などの生活や衛生面、そして活動全てが繋がっていることを実感しています。遊具だけでなく、何が必要かを職員全員で考えたり話し合ったりして、常に保育をふり返る中で、職員同士のつながりや向上心も増し、一体感が生まれたことを嬉しく思います。

4. 今後の課題と展望

開園したばかりの園であり、集団生活が未熟な子どもたちなので、様子を見ながら無理のないように実態に即した保育・教育を今後も心がけていきたいと思っています。子どもたちの成長は素晴らしいので、今までの経験を活かしながら、年齢に合った取り組みを今後も検討しながら一步一步前進していきたいと思っています。無償化に伴い保育ニーズが高まり、ニーズも多様化していますが、常に子どもの思いや育ちを大切に、0歳児から5歳児までの見通しをもった保育を心がけていきたいと思っています。

この度、助成していただいた備品を大切に活用させていただき、環境を整えることができましたことを心よりお礼申し上げます。

以上